



## 博物館友の会会報

通巻 128 号

安曇野市豊科郷土博物館友の会  
令和5年7月11日発行



### 博物館のみなさんを休ませ太らせたい

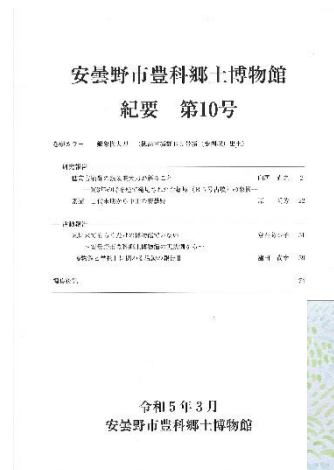
友の会会長 百瀬 新治

「豊科郷土博物館の職員は、企画展やコンパクト展示の企画から展覧会開催、研究紀要やブックレットの作成、小中学校や公民館への学習支援等々、県内では最も任務をこなしている人たちだと思いますよ。」長野県立歴史館特別館長の笹本正治先生の言葉です。私もまったく同感です。博物館の職員として日常行なう様々な業務を進めながら、調査研究や公開展示に専門性を生かしつつ取り組んでいるのが現状です。さらには、研究者として外部から依頼された講演や発表に応じ、自己の研究成果等をまとめ原稿を執筆し書籍の出版にも力を入れているのが、私たちの安曇野市豊科郷土博物館職員の姿といえます。

博物館に勤務しているのだから、これらの仕事を実施するのは当たり前と受け取られる場合があるかと思います。しかし、当館職員のみなさんは、時には時間を超越して仕事を行なう等最大限努力している実態にあります。さらには、より良い博物館を目指して周囲の方々の要望に応え、任務以上に仕事をしている場合も多くみられます。その一つに友の会活動への支援があります。適切な支援はもちろん一緒にする活動

することも多く、それが県下博物館でも特筆される充実した当館の友の会活動につながっているのです。

しかも、当館職員は全員市の非常勤職員であることも見逃せません。この厳しい勤務条件のもと奮闘しておられるみなさんに対し、友の会の一人として感謝と応援の気持ちを持っています。そして、自分たちでできる事はやっっていくから少し休んでくださいと伝えたく思います。それが実現した際の少し余裕のある勤務を利用して、ご自身の研究テーマ等に時間を振り向け、生活や健康に留意しながら博物館職員としての資質を太らせてください。すばらしい取り組みを続ける職員のみなさんにそう呼びかけたいくなる毎日です。



【博物館紀要 第10号】



【博物館ブックレット4】



【穂高西小学校クララの草木染めの授業支援】

# 第1回役員会・総会



4月14日（金）、第1回役員会・総会が無事に開催できたことに感謝いたします。令和4年度事業報告・会計報告がなされました。その後、令和4年度会計決算及び令和5年度会計予算・事業計画が了承されました。



## 役員紹介

今年度の役員の皆様です。昨年度と同じメンバーになります。大変、お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

会長	百瀬 新治	会計	古川 幸男
副会長	浅川 五子	会計	窪田 尚幸
副会長	志村 昌之	会計監査	隼田 和子
		会計監査	佐々木 泉

## 各部正副部長

部名	部長	副部長	副部長
書道部	千野 秀濤	隼田 和子	
絵手紙部	高橋 久子	上村 剛子	
植物画部	川上 公子	林部 典子	
山草部	古幡 正夫	村田 資子	澤柳 まき子
写真部	藤松 義躬	矢口 高志	
戦時生活部	臼井 泰彦	藤原 恵正	
自然と暮らしの文化部	竹内 明子	—	
植物調査部	新倉 美智子	—	
郷土史部	古川 幸男	—	
タカラさがし部	千村 裕一	藤松 慎一郎	水木 勝俊



## 友の会活動

### ◆「第39回 山草・サクラソウ展」令和5年5月3日（水）～5月5日（金）



山草部の皆様が生み出した山草・サクラソウ107点（出品者10名）が見事に可憐な花々を咲かせており、多くの来館者の目を楽しませてくれました。



◆「第18回ボタニカルアート展・第37回写真展」令和5年6月3日（土）～6月18日（日）

ボタニカルアート（植物学的で芸術性も合わせ持つ絵画）38点が展示され、丹精込めて描かれた鮮やかで繊細な表現に心を打たれました。

安曇野や県内外の風景や季節を捉えた写真、貴重な記録となりそうな作品など21点が出品され、地域や命の美しさを再認識できました。



◆6/18（日）友の会1回目の美化活動ありがとうございました！



**2回目は、7月29日（土）8:00～9:00です。 <少雨決行>**

**持ち物：飲み物等暑さ対策、草取り・剪定用具**

\*1回目は、大人30名、子ども11名、計41名の参加がありました。とてもきれいになりました。

2回目も館外の草取りや垣根の剪定を予定しています。友の会の大切な博物館のサポーター活動の一つです。ご都合のつく方は、是非ご参加ください。中止の場合は各部長に連絡します。

◆今後の友の会展覧会予定

展覧会名	会期
第20回友の会絵手紙展	11月11日（土）～11月26日（日）
第69回友の会新春書芸展	令和6年1月13日（土）～1月28日（日）
第9回戦時生活展	令和6年1月13日（土）～1月28日（日）

5・6月に、豊科北中学校と三郷中学校でお話をする機会をいただきました。いずれも、生徒たちが住んでいる地域がどのように変化してきたかに興味を持ってもらうための導入の時間でした。ただお話をするだけでは面白くないと思ひまして、同じ縮尺の大正時代と現在の国土地理院の地図を配って対比してもらい、そのちがいに気づいてもらうことにしました。最初に、「地図が好きな人はいますか、手を上げてください」と声をかけたところ、両校ともほとんど手が挙がらず、ビックリ。確かに自動車に乗れば、かつてはドライブマップが必須でしたが、現在はカーナビ頼り。住所を入力すれば音声の案内で、目的地にたどり着けます。地図など、必要ないのでしょうか。

もう一つは、友の会の郷土史部会の古文書講座。いつもなら古文書が読めない私は、講師などしないのですが、よんどころない事情がありまして、担当することになりました。そこで取り上げたのが、文字をそれほど読まないでいい江戸時代の絵地図です。まず、幕府が中心となって作成した「信濃国絵図」を取り上げました。正保4年(1648)、元禄15年(1702)、天保9年(1838)の三回、実は修正ですが、作られます。それぞれ「正保国絵図」「元禄国絵図」「天保国絵図」と呼ばれます。小藩が多い信濃国は、それぞれ自らの藩領内の下図を作り、松代藩がそれの一つにまとめて幕府に提出しています。当時の公式な、現在でいえば国土地理院の地図になるでしょう。村々の名前と石高、主要な河川、主要な道が描かれます。ただ、3000m級の北アルプスの山々は簡単に描かれ、当時の人々があまり関心がなかったことがわかります。講座では、安曇野市内だけを切り取って、三つの国絵図を参加者に配布しました。ほぼ同じ縮尺ですので対比は簡単です。大きなちがいを一つ紹介しましょう。それは、川の流れです。高瀬川、穂高川、烏川、中房川の流れが大きく変わり「天保国絵図」で現在に近いかたちになります。200年間の治水工事の結果、そして苦勞を視覚で知ることができます。国絵図だけではなく、郡図、組絵図、村絵図も残っています。古文書だけではなく、絵地図も歴史を語る大きな情報を持っています。今後、博物館でも地図に関わる企画を計画しています。ぜひご期待ください。

令和5年度 安曇野市豊科郷土博物館 夏季企画展

## 古代・中世の墓を覗(のぞ)く

…人は死者をどう扱ってきたか…

令和5年7月22日(土)～9月18日(月)



【穂高古墳群 C2 号墳石室内部】

### ◆シンポジウム「安曇野の古墳をめぐって…群集墳て何?…」

・日時 7月22日(土)13:30～15:30 ・会場 豊科公民館 2階大会議室

・パネラー 長野市埋蔵文化財センター 風間栄一 松本市教育委員会 関沢 聡  
安曇野市教育委員会 白居直之

・参加費 100円 ・定員70名(先着順) ・要申込 7月1日(土)9:00より電話にて受付

### ◆講座「古代・中世の墓は何を語るのか…現在の、未来の墓を考えるヒント?…」

・日時 9月2日(土)13:30～15:30 ・会場 豊科公民館 2階大会議室

・講師 豊科郷土博物館長 原 明芳

・参加費 100円 ・定員70名(先着順) ・要申込 8月19日(土)9:00より電話にて受付

### ◆ギャラリートーク ①8月5日(土) ②9月9日(土) 10:00～と14:00～(両日とも)

・要入館料 ・申込不要

### ◆現地見学会「黄泉の国を覗(のぞ)いてみよう～魏石鬼岩窟・陵塚の見学～」

・日時 9月16日(土)9:00～12:00 ・集合場所:有明山神社駐車場

・参加費 100円 ・定員20名(先着順) ・要申込 9月6日(水)9:00より電話にて受付



【古殿屋敷遺跡の墓から出土した副葬品】

\*友の会会報は、当館ホームページにカラーで掲載しています。是非ご覧下さい。